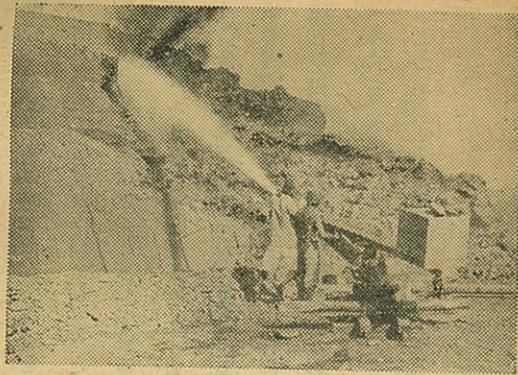


葉にあたり、何等失策を起さないで無事發電の目的を遂げたから良いものの、かような事件のため無理な仕事をして取り返しのつかない失敗をしたばどうであつたろう。著者がこの本によつてダムの知識を普及したいのは、こういためなのである。

九 八 田 堤

この頃八田與一君の小稿を探し出したから、八田堰堤の造られた當時のいきさつをここに發表しよう。八田君は私の親友で、學校を出てからその一生を臺灣總督府土木課に送つた。天才的な奇行に富んだ人で、亭溝の名物男であつた。同君は有名な嘉南大しう水締土堰堤を計畫し完成了。これが八田堰堤である。私が初め關係し、後工事成らざるを覺つて、手を引いた臺灣の大甲溪達見堰堤も八田君の發見にかかり、同君にすすめられて關係したのが、その始まりであつた。八田君は昭和十七年の初夏臺灣から上京し、これから南洋視察に行く、歸つてからゆつくり話をしようと東京から手紙をよこし、南へ出立した。然るにその途中、玄界灘で多數の有望な技術者と共に遭難してしまつた。まことに氣の毒な最期であつた。今はあのダムを造つた當時の關係者は全部故人となつたから、八田君の残した記事を發表しても迷惑をかけることもなかろう。



八田堰堤崩壊を陵丘で射水で水を堰堤八田

八田堰堤は臺灣臺南州にあり、半射水式土堰堤で高さ一八五尺、延長四三〇〇尺、貯水量五五億立方尺、貯水面積約一〇〇〇町歩、大正五年から昭和五年まで満十ヶ年以上かかつて完成した大工事で、このダムの築造によつて一五萬町歩の灌漑に成功し、臺灣に非常に大きな福利をもたらしたものである。以下八田君の遺稿から抜萃する。

「米國でシルラーと言う技師が射水式ダムを考案した。

ダム附近の高地にある土砂に射水を吹きつけて山地を崩かいし、桶でその土汁を運搬してダムを作るのであるが常に條件が良いと言う譯にいかないから『カラベラスダム』の如きは礫が不足のため工事中決潰を起した。烏山頭（八田ダムの造られた地名）は周囲の山が全部粘土だからこの土だけでダムを造るのは危険であると思つた。そこで曾文溪から適當な砂礫を汽車で運搬ってきて、ダムの兩側に捨て、それに射水して粒度を大小に分解し、ダムを築造する案を考え出した。その頃はまだ米國に半射水式ダムの現われない時代であつたから、奇抜

な方法と思われたのも無理はない。自分はこの工法がベストと信じたから、それを実行しようとした。ところが當時の○○技監や○○課長はどうしても許してくれない。そのような射水ダムはないと言うのである。ないから自分が発明したのだと言つても、外國にもないものは相成らぬと言つて大反対だつた。しかし自分はその工法以外に安全な案はないと信じていたから、それなら自分の意見を學會に發表して贅否を問うことにしてはどうかと申し出たところが、かかる役所の祕密を發表することは以ての外だと言つて、これさえ許してくれない。といつてみすみす危険だと思う工法を遂行することが出来るものではない。かような有様でもめていたが、大正九年米國でボルムスと言う技師が半射水式を發明し、一方純射水式のカラベラスが工事中潰れたので、漸く自分の意見が認められ、半射水式工法によつてあのダムが出來たのであつた。同時に一五萬町歩の耕地が甘蔗と水稻と三年輪作に成功したのも、自分の創案が認められた結果である。こんな譯で半射水式は米國に先鞭をつけられたが、自分の創案の方が早かつたことをひそかに誇りとしている。』

こう言うことは八田君ばかりではない。私もこれに似よつた経験を持つてゐる。從來の日本の官廳技師はこの通りであつたのである。今や民主主義の日本になつた、これから若い技術者は進んで發明し、自由に發表し、合理的のことならば思う存分實行出来ることであろう。八田君は

生前からダムの上に記念の壽像が建てられてあつた。まさか臺灣人が恩人の銅像を倒すようなことはないだろう、八田堰堤は今は日本のものでなくとも、永く臺灣人の生活に恵みを與えることであろう。八田君も以て瞑すべしである。

一〇 米國の請負者と日本の技師

グランドクーレーダム工事のごとき合衆國政府の工事を見たい者は、事務所に行つて許可證を貰うことが必要だ。それがないと入場することが許されない。許可證の下には政府の現場主任技師と請負者の現場主任と両方の名前が並べて書いてあるから、そのどれか一方にサインして貰うことが必要である。許可證は有效一日限りだから、暫く滞在して仕事を覚えようとするには、毎日許可證を貰わなければならないが、一日置きでないと發行してくれない。だから政府と請負側と隔日に發行してもらえば、毎日續けて仕事が見られる譯である。こうして見ると政府と請負の兩者は、工場視察許可に關して同等の権力を持つてゐるのである。日本人には不思議に思われるのではないか。しかし良く考えて見れば極めて當り前のこととて、兩者がそれぞれ責任を分擔して仕事をしているのだから、兩者同等の権力を持つのは當然のことなのである。